

## 中央検査部

### 概要・特徴

熊本大学病院の中央診療部門において、検体検査(血液生化学検査・凝固検査・免疫学的検査等)、微生物検査、生理学的検査(心血管超音波検査・心電図・呼吸機能検査・脳波検査等)、遺伝子検査を主に実施する部門である。臨床検査医学の素養を習得することで、各種疾患の病態を臨床検査値から推測することや、チーム医療の実際について学ぶことができる。

選択期間中の研修として、1カ月間の研修を基本単位として受け入れるが、臨床検査領域の研修内容は広範に渡るため、事前に打ち合わせを行って中心的に研修する内容を決定する。

### 研修の目標

#### [一般的目標]

患者を全人的に診療するために、臨床検査医学領域を中心とした基本的診療能力を修得する。

また、日常診療で使用頻度の高い基本的検査法(緊急検査、グラム染色、生理検査など)の技術および評価法を習得するとともに、様々な検査結果を的確に評価し病態を予測できるようにする。

#### [行動目標]

1. 採血から検査データ報告までの全行程を理解できる。
2. 予防医学の観点から、臨床検査医学の重要性を理解できる。
3. 適切な検査実施計画を立てることができる。
4. 臨床検査業務全般の倫理について理解できる。
5. 検査値の判断に関する他科からのコンサルテーションに答えることができる。
6. コメディカルとの適切なコミュニケーションのとり方を理解し、チーム医療を円滑に進めることができる。
7. 患者の家族背景、社会的側面に配慮することができる。
8. 地域医療連携を理解し、有効に利用することができる。
9. 臨床検査専門医を目指す能力を養うことができる。

### 研修期間に応じて研修可能な事項

中央検査部(臨床検査医学)の研修期間は、原則として選択期間中の1カ月間とする。この期間中に、以下のいずれかを中心とした臨床研修を受けることが可能である。関連する分野の専門医のほか、専門技能を有する臨床検査技師が指導者にあたることとし、事前に、主として研修する分野について希望を受け付ける。

また、将来臨床検査専門医の資格を得ることを検討中の場合には、3カ月間以上の研修を受け付ける。この場合、できるかぎり下記の全てを研修し、単独でそれぞれの検査が実施できるようになることを目指す。

#### 1. 生理機能検査

おもに、心・血管超音波検査の概要を理解し、各種の計測を行うことができるようになることを目指す。本研修では、経胸壁超音波検査や血管超音波検査に加え、経食道心臓超音波検査の理論と実際を学ぶことが可能であり、将来、とくに循環器内科医や麻酔科医を目指す医師にとって、検査技術を学ぶ機会となる。

#### 2. 微生物検査

グラム染色や、各種培地・生化学的手法を用いた病原体微生物の分離同定法を学ぶ。細菌・真菌の分類方法や微生物の特徴を理解し、抗菌薬の適正使用や感染管理に関する能力を習得することを目標とする。

将来、あらゆる診療科の専門医をめざす研修医を対象とする。

#### 3. その他

将来臨床検査専門医を目指す研修医においては、希望に応じ、上記の研修期間中に遺伝

学的検査や血液細胞形態診断についても研修することが可能であり、遺伝子異常と関連する疾患の検査を、専門医の指導のもと実施できるようになることを目指す。

#### **研修の方略**

研修医一人に対し、指導医もしくは臨床検査技師を指導担当者としてあてがい、密な指導を行う。また、研修医は、必要に応じて指導担当者とともに院内各所で実施される検査に赴き、補助医として検査の実施に携わる。希望する場合には、学生を対象として実施するR-CPCや、各種の院内ラウンド・勉強会等に参加することも可能である。

検査医学の守備範囲は広汎にわたるため、本カリキュラムは内科系、外科系各診療科の診療に直結した検査に関する幅広い知識と経験が得られるよう工夫されている。

#### **研修の評価**

研修医は、卒後臨床研修評価システムの評価項目に準じて、1ヵ月ごとに達成度評価を受ける。

#### **研修実施責任者**

中央検査部長：松岡雅雄

#### **研修指導責任者（指導医）**

（正）松井啓隆（中央検査部副部長）、（副）宇宿弘輝（中央検査部助教）